

2011年10月11日(火)

財団法人 日本サッカー協会

2011年度 第6回理事会

協議事項

<p>1. ナショナルコーチングスタッフの件</p> <p>なでしこジャパン（日本女子代表）コーチングスタッフについて、以下の通り契約を変更したい。</p> <p>監督：佐々木 則夫（ささき のりお）</p> <p>期間：2011年10月1日～2012年9月30日</p> <p>（現契約期間：2011年2月1日～2012年1月31日）</p>
<p>2. フットサル日本女子代表 国際トーナメント参加の件</p> <p>（協議）資料No.1</p> <p>12月5日より10日の期間、ブラジルにて第2回世界女子フットサルトーナメントが開催されることとなり、フットサル日本女子代表チームを編成し大会に参加することとしたい。また、フットサル日本女子代表チームのコーチングスタッフについては、昨年の大会に続いて、以下の通りとしたい。</p> <p>監督：在原 正明（ありはら まさあき）/東急スポーツシステム株式会社</p> <p>コーチ：石森 由紀（いしもり ゆき）/東京都フットサル連盟</p> <p>（活動予定）</p> <p>11月28日(月)～30日(水) 国内トレーニングキャンプ</p> <p>12月1日(木)～12日(月) 海外遠征（第2回世界女子フットサルトーナメント）</p>
<p>3. 日本女子選抜 海外遠征の件</p> <p>10月15日より24日までの期間、日本女子選抜チームを編成し、中東にて以下の親善試合3試合を行うこととしたい。</p> <p>(1)17日：対 ヨルダン女子代表戦（Prince Mohammad Stadium/アンマン）</p> <p>(2)20日（予定）：対 パレスチナ女子代表戦（会場調整中/パレスチナ）</p> <p>(3)22日（予定）：対 パレスチナ女子代表戦（会場調整中/パレスチナ）</p> <p>また、日本女子選抜チームのコーチングスタッフについては以下の通りとしたい。</p> <p>監督：本田 美登里/ナショナルコーチングスタッフ</p> <p>コーチ：北川 ちはる/ナショナルトレセンコーチ</p>
<p>4. 東日本大震災復興支援 ウェンブリーでの交流試合（高校生）の件</p> <p>イングランドサッカー協会より、東日本大震災復興支援活動の一環として、サッカーの『聖地』ウェンブリースタジアム（イングランド・ロンドン）のピッチを半日無償で貸し出すとの申し出があった。本協会では、在英国大使館と連携を取りながら検討した結果、被災地域の高校生を派遣することとしたい。</p> <p>(1)招待者 被災地の高校生16名</p> <p>(2)引率者 2名</p> <p>(3)旅程</p>

<p>11月22日(火) 日本発・ロンドン着 11月23日(水・祝) 練習(帝京ロンドンのグラウンドを使用予定) 11月24日(木) 在英日本人チームとのサッカー試合 11月25日(金) ロンドン視察(予定) 11月26日(土) ロンドン発 11月27日(日) 日本着</p> <p>(4) 試合当日予定</p> <p>13:30 スタジアム入場 14:00 開会式(Sir Bobby Charlton 招待予定) 14:15 キックオフ(試合時間、試合数は出場チーム数に応じて検討)</p> <p>(5) 費用負担 : 主催者負担/往復の航空旅費、英国国内の交通費、宿泊費等 日本側負担/日本国内集散旅費、前泊費</p> <p>※詳細日程、引率者等調整中 ※主催: 在英国日本国大使館、在英日本商工会議所 ※協力: The FA (イングランドサッカー協会)、財団法人日本サッカー協会</p>
<p>5. 国際委員 [在海外] 追加の件</p>
<p>下記の者を国際委員 [在海外] に追加したい。</p> <p>坂路 淳子 (さかじ じゅんこ)</p> <p><略歴></p> <p>■ 学歴 お茶の水女子大学 教育学部 卒業 (社会地理都市計画専攻) バルセロナ大学 卒業 (スペイン研究専攻)</p> <p>■ 職歴</p> <p>1987年～1990年 日本電信電話会社 1991年～1992年 Orient Aon Insurance Co., Ltd. スペイン語通訳・翻訳業 (1994年よりバルセロナを拠点としている) NOVA JIKA, S.A. (在バルセロナ) 代表取締役</p> <p>■ J F A 関連業務の実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ スペインでの J F A 指導者研修会のコーディネーション ➤ スペイン協会と J F A との橋渡し業務 ➤ スペイン協会 指導者養成事業関連の情報収集、視察のアレンジ・ミーティングのコーディネーション ➤ 2022 ワールドカップ招致活動のサポート ➤ スペインサッカー/リーグに関する情報収集
<p>6. チーム等に対する医学的義務の件</p>
<p>(協議) 資料No. 2</p> <p>選手、スタッフ等の安全を考慮し、2012年度より、別紙のとおり義務化することとしたい。</p>
<p>7. UEFA CORE Programme の件</p>
<p>(協議) 資料No. 3</p> <p>U E F A は、将来国際審判員として活躍できる若手審判員 (30 歳程度まで) を集中的に研修させるプログラムとして、“CORE Programme” を開催している。そのプログラムに審判員</p>

と審判インストラクターを派遣したい。

<経緯>

現在、審判交流プログラムが順調に行われている The FA の審判委員長 David Ellery 氏が、この UEFA CORE Programme の主任インストラクターを務めている。

同氏のご尽力により、このプログラムに日本から 1 組の若手審判員と審判インストラクターの受け入れが可能となった。

<派遣候補者>

主審：木村 博之

副審：田中 利幸、平間 亮

審判インストラクター：岡田 正義

※略歴は別紙参照

<派遣時期>

2012 年 3 月および 8 月

8. プレジデント・ミッション(PHQ) 関連事項の件

I. 2012 年度「M8. リーグ戦の推進と競技会の整備・充実」支援制度について

2010 年度第 6 回理事会決定内容に基づき 2012 年度の支援制度内容を以下の通りとしたい。2011 年度と同様に次の①から④までのリーグに対して支援制度を実施する。但し、支給方法については、U-18 都道府県リーグと U-15 都道府県リーグを包括し、都道府県協会にて予算配分を行う仕組みとする。

支援対象リーグ

①U-15 地域リーグ

②U-18 都道府県リーグ

③U-15 都道府県リーグ

④U-10/U-11/U-12 リーグ

2～4 種年代の各種大会・地域/都道府県リーグ補助金の包括支給については、引き続き検討する。

【2010 年度第 5 回理事会決定事項】

2・3・4 種年代の各種大会・地域/都道府県リーグに対して別々に支給していた補助金を、「育成年代リーグ補助金（仮称）」として包括して支給し、都道府県協会にて予算配分を行う。

但し以下の点について継続して検討したうえで、2012 年度以降の対応を別途提案する。

- ・スポンサー関連の検討調整
- ・都道府県協会における予算配分の効率性向上
- ・都道府県協会における補助金運営管理体制の確立と充実